



馬耳東風

「渡来から未来へ」キャッチフレーズゲートの下を「にじのパレード」が続く。どの顔も明るく歓喜に満ちた老若男女3,000人の古代衣装の列だ。先頭の幼児集団が目立って愛らしい。にわかには歓声が上がった。ゲートの葉玉くすだまが割れたのだ。「祝高麗郡建郡1300年」の垂れ幕と色とりどりのテープがパレードの頭上で舞う。郷土しゆくにが誇りとする古代史を一身に受け止めた瞬間だ。「続日本紀ほんき」は、文武天皇(697年)から桓武天皇(791年)までを編年体で記す六国史りっこくしのひとつである。その巻7靈龜2年(716年)5月の項に「辛卯以駿河甲斐相模上総下総常陸下野七国高麗人千七百九十九人遷于武蔵国始置高麗郡焉」とある。平城京に遷都し律令制度の下で天平文化が開いた元正天皇の時代だ。遣唐使が国際情勢や大陸文化を運び込んで、唐をモデルに国づくりを進めていた。半島情勢は不安定で、名高い白村江の戦い(663年)は日本・百済の連合軍と唐・新羅連合軍との間に行われた海戦だが、援軍に出た日本の水軍が唐の水軍に大敗、百済は滅亡、遺民とともに帰国した。間もなく高句麗が唐の高宗に滅ぼされ(668年)、半島から多くの渡来人を受け入れている。やがて朝廷の命で武蔵の未開発地に七国から集められた高句麗の渡来人は、信望厚い郡長の高麗王若光を中心に、高度な政治統治技術や高い技術力を駆使して開発に当たった。高麗王はその鬚白く人々の崇敬の念篤く、やがて白鬚明神の神として祭られた。白鬚神社は高麗郡を中心に、とりわけ荒川流域に多数分布し隅田川の白鬚橋の近くや他県にも鎮座している。埼

玉県日高市の高麗神社は高麗王若光の子孫が歴代継承し、現在の宮司は60代の由緒ある神社で、系図巻や貴重な古文書が所蔵され古くから地域の中核的信仰対象として訪れる人が多い。高麗郡は明治期に入間郡に飲み込まれたが、現在の日高市を中心に6市に及ぶ広域であった。古代史の権威上田正昭・京大名誉教授の「渡来の古代史一國のかたちをつくったのは誰か」(2013年 角川学芸出版)で、古代史研究から古代国家形成過程での帰化は、渡来が本筋だと、今や現代用語として定着した。彼の著書「帰化人」(1965年 中公新書)の反響は大きかった。

高句麗古墳は積石塚と壁画古墳で有名で、安岳3号墳は人物・風俗画を主題として名高い。わが国最初の彩色壁画発見の高松塚古墳は藤原京期に築造されており、四神図や女子群像の飛鳥美人は、鮮やかさで高句麗古墳の壁画と近似し、かつ独自の要素で輝きを持ち考古学ブームをもたらした。古墳は特別史跡に、極彩色壁画は国民的財産として国宝に指定された。この地は天皇家の陵墓が集中する渡来系氏族の居留地でもある。高麗建郡の年号は語呂合わせで716となる。飛鳥群像の色調を七色の虹に見立てた衣装パレードの発想は見事なものだ。手作りの古代史を市民参加で、国のかたちをつくった祖先の思いに応えた。渡来から未来へ、血と魂の道程を人々は虹の橋を渡って歩き続ける。海を渡った高麗錦が、つやっぼくどきりとする東歌とうたを生んだ。

こまにしきひもと さきかぬへに
高麗錦紐解き方けて寝るが上に
あいせ 何ど為ろとも あやに愛しき (万葉集14—3465)

(柏)